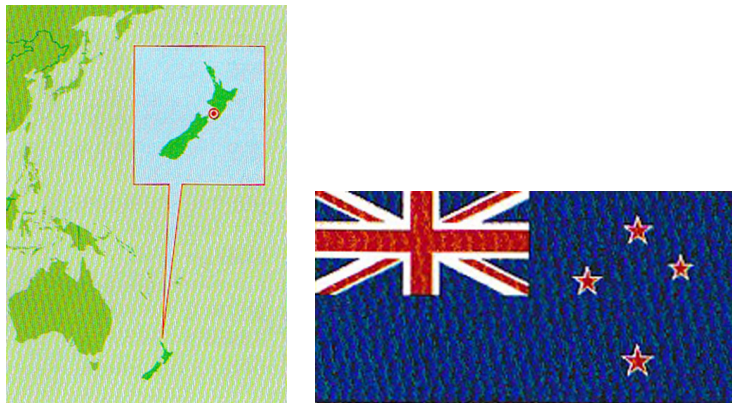


## 3442 富士有情：状況と心模様①

南半球、ニュージーランド、富士山と瓜二つ。エグモント国立公園、タラナキ山。

郷愁を誘う思いが重なった地球4周ひとり行脚。

日本出国から約一ヶ月が経過。タラナキ山との出会いは数年前に一度。



この作品は2000年ニューミレニアム。歴史的瞬間をニュージーランドでと探訪時の取材。

1999年11月、日本を出発、シンガポール経由、南島クライストチャーチ到着。

2000年1月までのニュージーランド、十弾ひとり旅。いつもの旅のスタイルである。

11月の南半球は、日本の春。クライストチャーチの美しいエイボン川や街並、  
気候の良さもあって、第一印象は最高！ カンタベリー湾を左に南下。  
最南端のインバーカーギルの街をめざした。さらに、北北西に進路をとり、テアナウに到着。

西南端のフィヨルド、ミルフォードサウンドを探訪。そして、マウントクックへ。

山の向こうの背後にある氷河までトレッキング、  
東に、西に、南に、北に、道なき道での感動の出会いを求めて…

ウエストランドをさまよい、タスマン海を左に、南島北端、フェリー乗り場をめざした。

やがて、ピクトンへ、しかし、町らしい街が見つからない。

過疎だけに、自然がいっぱい、空気も美味しい。南島の旅、迷いながらも楽しんだ。

フェリーの出発は夕刻。何も決めない。宿泊しかり車での移動、最悪、車中泊も可能と楽観。

季節も最高。厳寒のアラスカではない。南島は自然いっぱい。

反面、人恋しく感じた時もあった。到着地のウエリントン、首府である。

自然は堪能。ネオンも見てみたい。このギャップが何とも面白く、違いも感じられると期待。

予約もしていなかったが、乗船できそうである。かなりの待ち時間がある。

山を見上げると高台がありそう。フットワークのいい久楽が登場。即実践。高台へ。

眼下の絶景。波止場も見えた。汽笛がなぜか、身にしみる。日本を離れて、1ヶ月近くなる。

ふと、どうして私は、ここに居るのか。今、地球の反対側にいる。

日本は師走の12月。あの友人は今頃どうしているのだろう。ご無沙汰ばかりしている。

しばし、人生を振り返りながら、物思いにふけた。



眼下の大型のトラックや乗用車の動きが目に入った。

遙か彼方からフェリーらしい船影が目に入った。すぐに立ち去るべきか否か。

結果、運良く記録に残せた。そして、フェリー乗り場に急いだ。